

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393400037		
法人名	有限会社 ふなびきメディカル		
事業所名	グループホーム ほほえみ犬山		
所在地	〒484-0064 愛知県犬山市市原西 3-33		
自己評価作成日	平成27年10月25日	評価結果市町村受理日	平成28年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成27年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人のできる事、できない事を見極めてそれに添うケアを心がけている。経営母体のふなびきクリニックと連携し 医療面でのサポート・緊急時の体制を整え利用者が快適に過ごせるよう健康管理に努めている。フロー、居室の美化に目を配り 利用者が落ち着いて生活して頂けるよう心がけている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

歩行の安定している利用者が車椅子の人を押して散歩に出掛けたり、荷物の運搬が出来る利用者には無理のない範囲で手伝いをしてもらうなど、その人その人に合った支援が出来る様に日々の申し送りやアセスメントで把握に努めている。同一敷地内に医療機関があり、24時間ドクターや看護師の緊急対応や相談が可能である事は、利用者や家族、また職員も安心して日々を過ごせている。地元自治会のウォーキング大会に利用者や職員で参加したり、散歩時に近くの幼稚園児と挨拶を交わしている。小・中学校、高校生との交流事業や各種ボランティアを受け入れるなど、地域との関係を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	おひとり おひとりが主役のグループホームであり地域との交流を密にし ミーティングや日々の申し送りにて情報を共有することにより日々の暮らしを援助できるよう取り組んでいます	理念は、いつでも職員が目にする場所に設置しており、事ある毎に確認し共有をしている。日々の状態や気持ちの変化等をケアに反映出来る様に申し送りをを行い、本人にとって何が良いのかを話し合い実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議において地元自治会 老人会などの参加を呼び掛けている。自治会主催の行事のお誘いにてウォーキングなどにも参加している	地元自治会のウォーキング大会に利用者と職員で参加をして楽しい時間、話題が持てた。ほほえみだよりを母体の病院フロアに掲示してホームの様子を紹介し、問い合わせ等を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の施設見学・来設を積極的に受け入れている。認知症への問い合わせに関しては来設時のみの説明とチラシなどの配布のみのため勉強会開催までは至っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の報告書を関係者に配布している。会議での意見等はミーティングにて議題とし話し合いサービス向上に生かしている	2ヶ月毎の開催とし、市役所長寿社会課担当者、家族、利用者、職員の参加で行っている。AEDの使用訓練や各種勉強会など、話し合った事を毎回全ての家族に手紙で報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との密な連携が取れるよう、入所相談において問題が発生した際は 連絡を取っている。犬山市より介護相談員の受け入れも行ない運営状況など見て頂いている	包括支援センターの認知症カフェに参加をして専門の先生の講義を受けた。市役所、包括支援センターにはパンフレットを届けたり、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないような介護を心がけている。定期的な勉強会にて身体介護について職員全体での具体的な行為を正しく理解するように取り組んでいる	日常の中で各種の事例に対応し、職員全員が情報共有出来る様にしている。やむを得ず行う場合には家族に同意を得、必要最低限の拘束となるよう検討を重ねている。スピーチロック等にはその場で注意や指導を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会の実施を行い、虐待防止の認識をもつように心がけている。何が虐待の対象になるのかの話し合いを行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者の方が退所されたが、定期的な勉強会を行い制度の理解に努めている。今後の対象者受け入れが円滑にできるような体制を整えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行っているが、不安や疑問点がみられた際にはその都度説明を行い理解・納得を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見や、面会時に日頃の様子を報告しながら要望が聞けるようにし、要望 意見がある際には推進会議の報告書に記載し配布をしている。意見、提案に関してはミーティングや申し送りにて報告をして問題解決をしている	家族の面会時に現状報告を行い、家族の要望や意見、困り事などはその都度納得してもらえるように努めている。職員間では朝の申し送りやカンファレンスの際に周知、検討を行い反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や申し送り時に自由に意見を出し合っている。代表者には、法人内会議にて提案を上げている。代表者は、日頃より職員への声掛けなどおこなっている。	申し送り時など随時、相談や意見が出し合えている。育児中の職員には配慮ある勤務体制の奨励も行っている。法人内の会議や勉強会への参加、外部の研修等への参加も奨励している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が週に何度かホームを訪れ職場環境を把握している。職員とのコミュニケーションもとり、研修等への参加に関しても積極的に認めて頂いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修や、施設外の研修にも参加している。不定期ではあるが、施設内研修も案内があり参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修時や、空室の際の営業にて相談や情報共有を行いサービスへのアドバイスも頂くと共にネットワーク作りに活動している		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学と本人面談の際に顔なじみになることで、不安や 要望を聞けるようにしている。入所時に本人が大切にしている思い出の品などを持参して頂くなどし、安心への確保に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や本人面談にて気軽に話せる関係を取れるようにし、契約時や契約後も質問疑問に答えられるような環境を整える様になっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談記録やアセスメント及び利用開始までの利用していたサービス関係者との情報共有を行い、必要としているサービスを総合的に判断して何が必要かを見極めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に過ごすという関係を心がけて、日常生活の中では先輩である利用者の方からも教えを乞う形で 生活を共に支え合う関係としている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告したり 必要に応じてTELにて状況を伝え ホームからも相談をお願いをするなどして 共に本人を支え合う関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設されているデイサービスを利用されている方は デイサービスでの催しにも参加させて頂いている。	家族と馴染みの店で昼食に外出したり、喫茶店や美容院へ出掛けたり、お盆や正月には自宅で宿泊する利用者もいる。家族に電話を掛けたい利用者には掛けてもらい、納得が出来る様に支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者が活躍できる場面をみつけたり かつて得意としてきた事を活かせるような場面をつくることにより 他者との関わり合いを持ち 支えられるような環境にしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も ご希望に応じて訪問や相談を受け入れている。退所後の生活が円滑におくれるよう情報共有も行なっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の思いや暮らしへの希望に関してはアセスメントや情報共有にて本人の意向の把握ができるよう職員で話し合いを設けたり家族からの生活歴を再確認しながら検討している	職員は、家族から利用者の今までの生活歴等聞いたり、日々の会話の中から思いや本音を聞いて、利用者一人ひとりがどのように考え、どう過ごしたいかを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や、家族からのアセスメントをもとに日々のケアに生かせるようにしている。本人の普段からの会話の中で出た話を個人記録に記載するようにもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録にて日々の様子や 心身 精神状況の把握をしている。気づいた点に関しては毎日の申し送りやミーティングにて現状把握をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングにてケースカンファを行って本人のケアに必要な点を話し合い 家族 ナースなどからの意見を聞き取り介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、本人、家族の意見や要望、現場の意見等を反映させながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録への記入にて行動や言動 精神状態をみながらミーティングや申し送りで職員で情報を共有し必要に応じて介護計画の見直しをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設での行事などの参加や訪問を行い常に交流をもっている。希望者によっては実費ではあるがリハビリも行なっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民のボランティアの受け入れや小中学の職場体験にて文化や趣味の交流を図り楽しんで頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	有床診療所からの往診以外にも 24時間体制での緊急時の対応や 専門の医療機関での受診が必要の際は専門医療機関にて受診できるよう医療連携しながら支援している。	専門医の診療を必要とする場合を除き、契約時に母体病院がかかりつけ医になる。在宅ナースも入り利用者が24時間安心できる体制が作られている。また、訪問歯科診療も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは24時間体制で連絡体制の確保している。申し送りノートの作成をし個々の体調管理も行なっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設の有床診療所からは医師及び看護師から情報提供を受けている。他病院での入院時は病院への見舞いの際に病院関係者との情報共有や相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の急変時や看取りについての指針体制について説明している。医師 家族 各サービス関係者も含めての話し合いの場を設け情報共有のもと支援している	契約時に利用者と家族の思いや希望を聞いて、職員全員で共有が出来ている。母体病院と連携を取りながら、家族との話し合いを持ち、看取りまで対応する体制が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの作成とともに 定期的に勉強会を行い初期対応できるようにしている。AEDの講習会の開催や受講をAEDの使用法の訓練もしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所全体での訓練の他に、施設での避難訓練 災害時の定期的な勉強会を行っている。ホームの固定電話の公表をし緊急時の連絡体制を整えている	消防署の協力のもと、利用者も職員も全員参加の避難訓練を年2回行っている。夜間を想定した訓練を主に行っている。緊急連絡網を使い、緊急時の連絡事項を確実に伝達出来るような訓練も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー確保のため全室個室にしている。利用者一人一人の人格を尊重する声掛けに心がけ利用者の思いがくみ取れるような対応に努めている	職員は利用者との対話で傾聴に心掛け、適切な敬語を使用するように努めている。不適切な対応があった場合、その都度注意し、利用者がプライバシーを損なわないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でできるだけ本人の意見や思いが聞けるような環境づくりに努めている。本人の希望や思いに応えられるよう ミーティングにて話し合い 本人の意思を尊重できるように対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクを楽しむ方 静かに過ごしたい方などそれぞれが過ごせれるように配慮している。一人一人の生活リズムの確保を心がけ本人の意思を確認しながら生活を支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に沿って美容院を利用している。洋服は本人の希望を聞きながらセットが必要な人に関しては行うようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝のメニュー紹介や 食事前の配膳のお手伝いを行って頂き 待ち時間の際でも食事のメニューを確認しながら待つ時間を楽しんでいる。	利用者はそれぞれ自分の席に座り、ゆったりと自分のペースで食事を楽しんでいる。利用者一人ひとりに合った食事形態が提供され、パンかご飯の選択も出来る。お正月にはおせち料理やお屠蘇も出される。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量 水分量の個人記録にてチェックをしながら摂取状況や体調面を把握し必要時には食事形態の変更などを行っています。医療スタッフとの連携により栄養補助食品での栄養補助も行う場合があります		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施しています。義歯の口腔ケア洗浄も就寝前に行っています。自身で口腔ケアが行える方は見守りをし介助の必要な方は介助に行っています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄リズムを把握しながら 必要に応じて声掛けを行っています。日中声掛けが必要にない方でも夜間声掛けをするなどその人それぞれの対応に心がけています。	個々の排泄状況やパターンを把握し、職員間で情報を共有し、一人ひとりに合わせた支援を行っている。その際できるだけトイレで排泄してもらえるよう、誘導や介助を行い自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の摂取量や水分量 運動量などのチェックをしながら便秘予防しています。排泄チェック表を作成し個々に便秘の際の対策を医療連携もしながら対応しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週2回を目安に 体調面を考慮しながら入浴して頂いています。入浴日は個々に決めていますが 体調やその日の気分に合わせて入浴日を変更もしています	入浴は2人体制で行なわれ、シャワー浴の設備も完備され、利用者一人ひとりに合った入浴支援をしている。入浴を好まない人には声掛けのタイミングをずらす等して、入浴を上手に促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠がなかなかできない方には 一緒に話を聞いたりしながら睡眠パターンを把握しながら安心して睡眠がとれるような環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤情報をファイルしている。職員が常に確認把握できるようになっている。本人の状態異変がみられる際には 医療連携にて服薬検討して頂けるように対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて日常生活の中から役割分担が自然に出来上がっている。レクや散歩を楽しむ人などそれぞれが楽しみを持って生活できるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には ホームの外周を散歩したり季節ごとに桜見学 紅葉見学などにも出かけている。家族の方とも協力し合いながら本人の出かけたい場所などがホームで対応できない場合は外出の依頼をしている	できるだけ本人の希望に添えるように努め、天気の良い日には散歩等をしている。また、季節を感じられるよう法人内の事業所と協力し合いながら、お花見やドライブなどの外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金で処理している。必要なものがある際は購入を家族にお願いしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙に関してはできていないが、電話に関してはいつでもかけられるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはホームで育てた花を飾っている。フロアではソファーに腰かけて一緒にTV鑑賞するなど心地よい空間づくりに努めている。廊下にはたよりや季節の掲示をし、立ち止まって眺めて頂けるようになっている	対面式のキッチンからはリビングのソファでくつろぐ利用者を見守ることが出来る。壁面には季節に応じて、レクリエーションで作成された作品を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファーを置き、気の合った方同士でおしゃべりをしている。自席にて気兼ねなく一人でTV鑑賞されたり、作業されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に慣れ親しんだ家具の持ち込みや衣類をお願いし、居室での空間が自宅のように安心して生活して頂ける様にしている。	居室には仏壇や家具等を自宅から持ってきてもらい、使い慣れた物を使用することで安心した生活ができる場所となっている。また、家族の写真や自分の作品等も飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレの手すりの設置をし、安全面での配慮をしている。自室の入り口には表札があり、自室と他の人との部屋の区別がわかりやすいよう工夫している		